

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 秋田市立秋田商業高等学校
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒010-1603
秋田県秋田市新屋勝平台1-1

E-mail : akisho@akisho.ed.jp
Website : http://www.akita.ed.jp

幼児児童生徒数 男子 317名 女子 398名 合計 715名
幼児・児童・生徒の年齢 15歳～18歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「主体的に考え、地域に貢献できる意欲と知識をもった生徒の育成」を目標として、ESDを総合的な学習の時間の包括的な概念と捉え、ESDの実践を通して「社会人基礎力」の育成を目標とした。

社会人基礎力とは、将来の職業人（社会人）としての規範意識や倫理観をもつこと、技術の進展や環境の変化に対応した柔軟な思考力をもつこと、そして各産業での知識や技術をもつことである。

具体的には、「Think globally, act locally（地球規模でモノを考え、地元で行動しよう!）」を合い言葉に、次の三つのつながりを意識して活動していくことにした。

・自分と仲間 ・自分たちと学校外（企業など）の人たち ・自分たちと自然

全校生徒は総合的な学習の時間（「ビジネス実践」と総称）において、これらのつながりを意識しながら、①AKISHOP、②キッズビジネスタウン、③エコロジカルビジネス、のいずれかの活動に参加することによって、「社会人基礎力」を身につけることが期待された。今年度、こうした活動は全国産業教育フェアの一環として行われた。

① 地元企業との連携に係わる学習（AKISHOP）

商品開発やイベントなどを通して、ビジネス力（プロデュース力）を育成することが目標とされた。イベントとして竿燈やよさこいの披露を行うとともに、全国から「ゆるキャラ」も集め、お客さんと触れ合った。地元企業と連携して新商品を開発し、1万2,000個の商品が完売した。生徒たちは商品開発やイベントの企画を行う中でコミュニケーション力を高め、仲間と協力して行事を成功させることで、達成感を味わうことができた。

② 金融教育に係わる学習（キッズビジネスタウン）

模擬会社を運営し、小学生に就業体験をさせることを通して、ティーチング力を育成することが目標とされた。秋田県生涯学習センターを会場にしたこのイベントには2日間で400名を超える小学生が参加し、大盛況であった。生徒たちは企画段階から当日の運営まで試行錯誤を繰り返し、素晴らしいキッズビジネスタウンを築いた。

③ 環境問題に係わる学習（エコロジカルビジネス）

企業やNPO法人などとの連携を通して、エコロジカル（生態系保全）とビジネス（商業・経済活動）を両立させた「持続可能な社会」の構築のために行動する力を育成することが目標とされた。生徒たちは地球環境問題について外部講師から学んだほか、不用品のフリーマーケットの開催、農園でのダリア摘み、秋田杉の廃材を活用したエコ箸講座の運営などを行った。



① 秋田市民市場での商品の販売



② 秋田の特産品「ババヘア」の販売



③ 農園でのダリア摘み



③ 秋田杉を活用したエコ箸講座

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

特になし

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

総合的な学習の時間での体験学習は「ビジネス実践」と総称されており、「ビジネス実践推進委員会」が毎年その実施要項と年間実施計画を提示し、全校生徒と全教職員がそれに基づいて4月から11月までこの本校独自の教育活動に参加している。この活動は（1）の概要で示した通り、「つながり」などのESDの主要概念を重要視しており、これがユネスコスクールとしての主な活動であると言える。この活動については年度末に保護者や職員による学校評価、学校関係者評価委員会、ビジネス実践推進委員会などで振り返り、その結果を次年度での実践につなげている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

総合的な学習の時間での取り組みである「ビジネス実践」が行われるようになってから10年以上経過しており、この活動は校内にしっかりと根づいている。全校生徒に対しても毎年、4月下旬にガイダンスを行っている。毎年11月には、各班の代表生徒が各クラスを回る形で「最終報告会」を行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

上記の□に記載した方法により、総合的な学習の時間での取り組みについて評価を行っている。保護者アンケートにより、教員が活動の意図をしっかりと生徒に説明し、教員と生徒が共通理解をもって活動に当たることが必要であることが分かった。教員の評価の中には、ややマンネリ化したこの活動をやめて、総合的な学習の時間に資格取得のための学習を行ったらどうかという意見もあった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

このビジネス実践学習は毎年のように地元のラジオやテレビ、新聞で取り上げられており、市民に親しまれるものとなっている。そのように注目されることが生徒たちのやる気につながっていると思われる。2008年～2012年にビジネス実践の一組織である「ユネスコスクール班」(現在のエコロジカルビジネス班の前身)が発行した5冊の本は、アマゾンなどで現在でも発売されている(古本のみが入手可能)。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

ビジネス実践学習を通して、地域の中小企業、小学校、大学、NPO法人、地方公共団体(秋田県や秋田市)などとの連携が自然に実現している。ESD活動支援センターやESDコンソーシアムとの連携は特に意識していない。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

かつてはユネスコスクールである大曲南中学校と連携して教育活動を行っていたが、現在はそのような活動をしていない。国内外のユネスコスクールとの交流やネットワーク形成の予定は特にない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

この総合的な学習の時間の取り組みにより、生徒たちには様々な活躍の場が与えられている。普段は目立たない生徒がこの活動に意欲的に参加し、すばらしい活躍をして、本人の自信につながっているケースが多く見られる。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

来年度においても、年間35時間の総合的な学習の時間を「ビジネス実践」に当てて、全校生徒・教職員がこの教育活動に取り組む予定である。この実践学習の目標やねらいには引き続き、ESDの主要概念である「つながり」や地球規模の視点が盛り込まれる予定である。